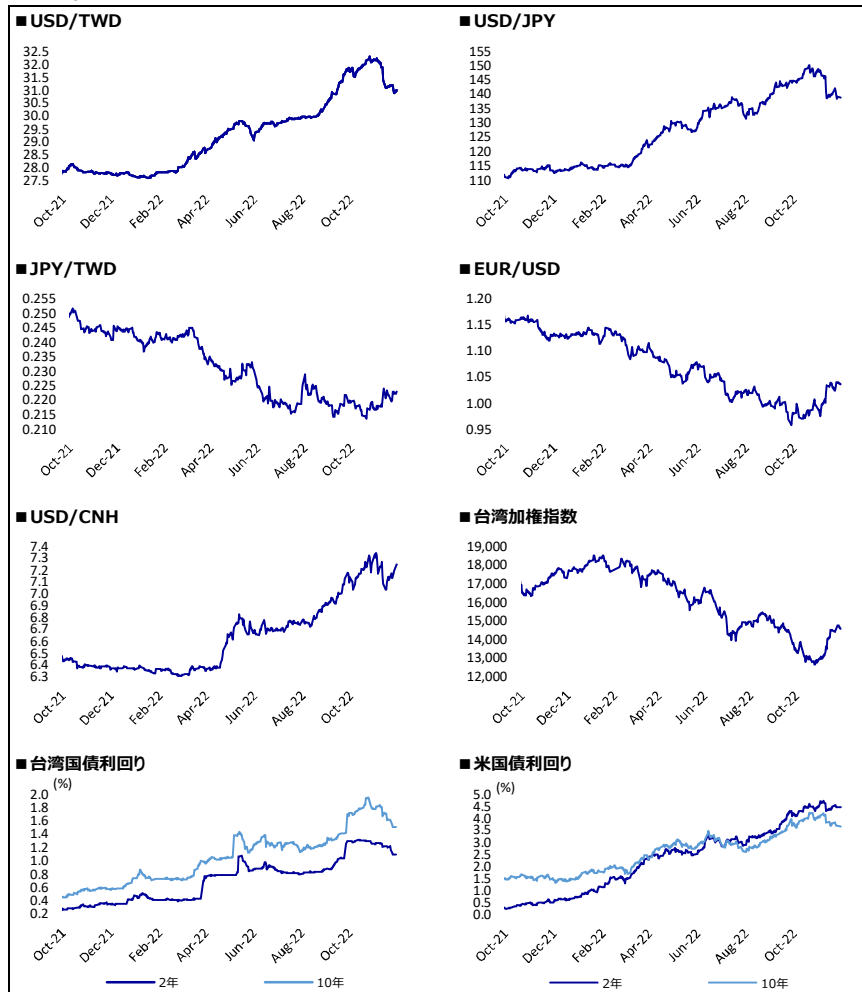


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初11/21は31.200でオープン後、台湾株が軟調に推移したことに加えて輸入企業もドルを買う動きが見られ、一時31.234まで上昇したものの、輸出企業がドル売りに入ったことで上値を押さえ、31.20付近で推移。11/22も同様に31.20を挟んでもみ合う展開となったが、11/23は台湾株が上昇して寄り付くと31.13付近まで下落。しかし、ドルが買い戻されると31.2台に上昇したが、31.2台では輸出企業のドル売りが入り、上値は押さえられる流れは続いた。3/24はFOMC議事録を受け米国の利上げペースが減速するとの見方から台湾株がじりじりと上昇し、海外からの資金流入が続くとドル台湾ドルも31ちよど近くまで下落。3/25も台湾株が上昇すると輸出企業のドル売りも相まって、一時30.836まで下落。最終的に先週比0.9%ドル安台湾ドル高の30.905で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は241.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初11/21は140.32でオープン後、堅調に推移していたものの、中国本土で半年ぶりに新型コロナウイルスによる死者が確認されたことから、中国のコロナ対策が強化され景気後退への懸念が高まり、リスク回避のドル買いが優勢に。中国景気後退から欧州景気への影響も懸念されユーロが売られたこともサポート材料にドル円は一時142.25まで上昇。11/22は米金利が低下する動きにつれてじり安の展開となり、142円を割り込み、141円台前半まで下落。11/23は東京休場であったものの、米国の新規失業保険申請件数が予想を上回り、11月PMIが製造業、サービス業いずれも50を下回り、予想を下回ったことから139円台後半まで下落。その後、FOMC議事録では大多数が利上げペースの減速がまもなく適切になる可能性が高いとの見方を示したことから米金利の低下と共に、139円台前半まで下落。11/24は前日の流れを受けてドル安が継続し、米国が感謝祭の祝日であったものの、一時138.05まで下落した。11/25は一時139円台を回復したものの、米国の利上げペース鈍化への期待が高まる中、上値は重く、138円台で推移。米金利が上昇するとドル円は139円台に戻したものの、感謝祭後で市場参加者も少なく動意に乏しい展開が続いた。最終的に先週比0.9%ドル安円高の139.17で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.900-31.300
週末の台湾統一地方選では与党の民進党が大敗したことや、中国でのデモ活動が活発化していることから、台湾株への影響に警戒したい。月末の輸出企業のドル売りも想定はされるものの、底堅く推移すると見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：138.00-143.00
今週はパウエルFRB議長の講演や、米雇用統計をはじめ複数の経済指標の発表が予定されており、発言や指標の内容次第で左右される展開となるであろう。米国の利上げペース鈍化への期待が高まっている中、12月の利上げを0.75%と織り込む見方が強まった場合にはドルは買われやすいであろう。

今週の予定

11/28 (MON)	
11/29 (TUE)	台湾Q3GDP改定値、米11月消費者信頼感指数
11/30 (WED)	米11月ADP雇用統計、米Q3GDP改定値、米ページブック
12/1 (THU)	米10月個人所得・支出、米11月ISM製造業景気指数
12/2 (FRI)	米11月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。